

京都駅東南部エリア活性化に向けた 議論の視点

- I エリアの課題・ポテンシャル
- II まちづくりの方向性
- III エリアの将来像
- IV 施策の柱

I エリアの課題・ポテンシャル

課題

人口減少・高齢化の進展により、地域活動の担い手不足が加速しており、地域コミュニティの活性化を図る必要がある。

低・未利用地が点在しており、その活用を図る必要がある。

地域資源 (ポテンシャル)

京都駅周辺でまちづくりの取組が進められている。特に、隣接する京都駅東部エリアでは、京都市立芸術大学の崇仁地域への移転整備を契機とした、新たな「文化芸術都市・京都」のシンボルゾーンを創出するまちづくりの取組が進められており、京都への移転が決定した文化庁のサテライト的機能を担うことも期待される。

エリアの周辺で都市基盤の整備が進んでいる。

低・未利用地を有効に活用することにより、京都駅の南側に都市の価値を創造する拠点を作ることが期待できる。

京都芸大の移転を契機として、若者を中心とした新たな人の流れの形成と、地域コミュニティの活性化が期待できる。

(参考)京都市立芸術大学の移転について

(京都市立芸術大学移転整備基本構想から抜粋)

【移転整備の基本理念】

京都の玄関口・京都駅の東部エリアに、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生します。

【基本理念の視点】

- ① 文化芸術による世界の人々の交流、まちの賑わいの創出
- ② 高度な教育研究活動を支える環境を確保
- ③ 産業や文化、観光、他大学等との連携の強化
- ④ 芸術の才能・感性を育む関係機関との連携

【基本理念の背景】

京都芸大の定款や中期目標においては、これまでの永年の取組を継承しつつ、自由で独創的な研究と質の高い芸術教育、創造的な人材の育成、次世代の先駆けとなる教育研究活動の成果の発信をもって、京都はもとより世界の芸術文化の発展に寄与することとしています。

崇仁地域への移転整備は、これらの活動を更に飛躍させ、京都芸大が将来に向かって発展するとともに、京都駅の近く、東山の文化ゾーンへの動線上にあるというこの地域において、京都芸大が意欲的な教育研究活動やその成果の発信を行うことにより、文化芸術による人の交流を通じた地域の発展に寄与することが期待できます。

【移転に伴い新たに整備を検討している施設等】

- ・ 大学の将来を見据えた、音楽ホール、メディアサポート機能、学外連携共同研究室・工房等
- ・ カフェ等の市民や国内外からの観光客が集い、交流する関連施設

【学部】

美術学部（大学院：美術研究科修士課程、博士（後期）課程）
音楽学部（大学院：音楽研究科修士課程、博士（後期）課程）

【職員数、学生数（平成28年5月1日現在）】

教職員数：専任教員 99名、職員 78名、
学生数：1,040名

Ⅱ まちづくりの方向性

1 京都ならではの地域力・市民力をいかしたまちづくりを進め、京都市の施策との融合を図る。

エリア内の住民や事業者等と京都市が、課題意識と同時に夢や未来を共有し、エリアの様々な課題を「ひとつごと」ではなく、共に「自分ごと」、「みんなごと」として、知恵と力を出し合う。

2 「文化・芸術」をいかした周辺エリアとの連携を図り、エリア間の相乗効果を追求する。

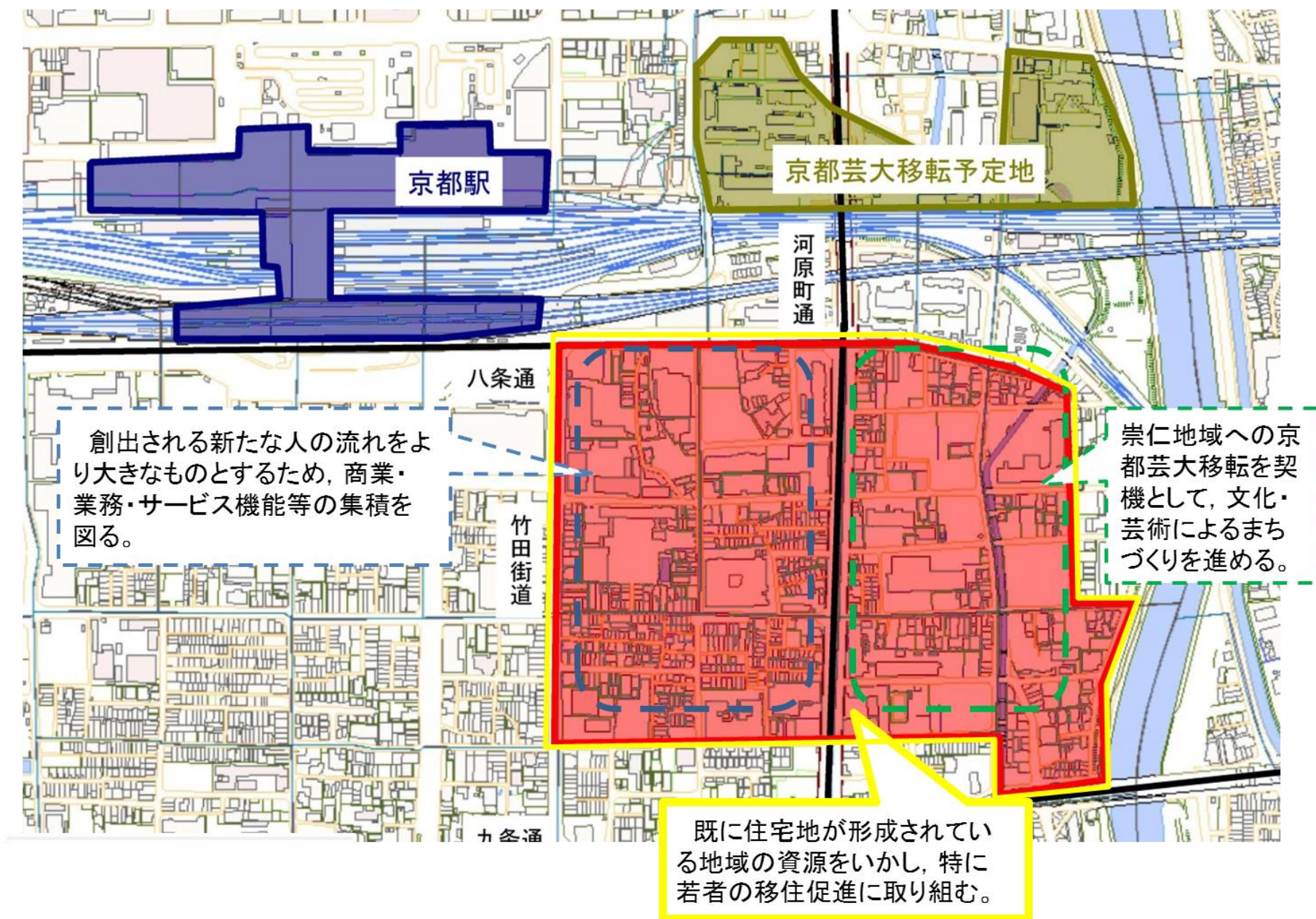
「文化・芸術」と「若者」を核としたエリア内での取組を推進するとともに、周辺のエリアとの連携を図り、エリア間の相乗効果を追求することで、京都全体の大きな飛躍につなげていく。

3 市有地をはじめとする低・未利用地や空き家を活用し、特色あるまちづくりを行う。

- (1) 京都芸大を核として、京都駅周辺に、幅広い民間の文化団体や芸術家が集い、交流する、文化庁のサテライト的機能を展開することを踏まえ、本エリアにおいても、京都芸大の移転予定地に近接する河原町通より東の地域を中心に、文化・芸術によるまちづくりに取り組む。
- (2) 京都駅に近接する河原町通より西の地域を中心に、商業・業務・サービス機能等の集積を行う。

4 民間の知恵と活力を最大限に活用する。

創造性あふれる民間の知恵や発想を十分に取り入れながら、民間活力を最大限に活用することで、活性化の効果を更に大きなものとする。



Ⅲ エリアの将来像

- 子育て世代や高齢者，国際的に様々な人々が集い，心豊かに住み続けられるまち
- 若者を中心に，学び，住み，働き，交流する活気のあるまち
- アーティスト等が集い，文化・芸術を創造し，世界に発信するまち
- 京都駅からの近接性を生かし，観光客に便利なサービスを提供する施設など，京都の玄関口にふさわしい魅力的な施設が集積するまち

Ⅳ 施策の柱

- ① 子育て世代や高齢者，国際的に様々な人々が，心豊かに住み続けられる環境づくり
- ② 若者の移住・定住の促進
- ③ 文化・芸術関連産業や創造・発信拠点の集積など，さまざまな人が文化芸術を体験し，学び，創ることができる環境の整備
- ④ 市有地の活用
- ⑤ 民有の低・未利用地の有効活用の促進
- ⑥ 総合的な空き家対策の推進，市営住宅の空き住戸及び空き店舗の活用
- ⑦ まちづくりの担い手の育成（大学や学生と地域との連携など）

- ・ 周辺のエリアとの連携を図り，エリア間の相乗効果を追求する。
- ・ 民間の知恵と活力を最大限に活用する。

(参考)京都市への移住促進の取組

- 平成27年9月、人口減少社会の克服と東京一極集中の是正に向け、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略を策定し、少子化対策、移住支援、文化庁京都移転など、京都市ならではの地方創生を推進
- 戦略策定と同時に、市民団体等と本市で構成するプロジェクトチーム「チーム京都・移住応援チーム」を結成
- 平成28年3月、「京都市移住応援ガイド」の作成や、東京での移住相談会の開催により、京都市の地域の多様な魅力と個性を情報発信 → ①, ②
- 平成28年5月、京都市への移住を総合的に支援するため、「チーム京都」など市民ぐるみで取り組む「京都市移住サポートセンター『住むなら京都(みやこ)』」を開設、同時に北部山間地域への移住促進をスタート → ③

①東京圏を中心に配布！ 移住応援ガイド「住むなら京都」



教えて！あなたの移住エピソード

伝統工芸、起業、京町家暮らし、自然豊かなくらしなど、6つの移住エピソードを紹介

②「チーム京都」で協力して開催！ 「住むなら京都」移住相談会in東京



定員60名を越える100名が参加！

京都の「まち」や田舎の魅力を紹介。個別の移住相談会も実施。熱心な移住希望者が多数参加。

③地域の多様な魅力と個性を活かし、市民ぐるみで応援！ 京都市移住サポートセンター「住むなら京都」の開設



東京一極集中の人の流れを京都から変えていく！

- ・相談窓口を京都市内と東京都内に設置
- ・仕事、住まい、子育てなど総合的な情報発信・相談対応
- ・移住の相談会、セミナー、交流会などを開催
- ・北部山間地域への移住を強力に促進

(参考)京都市における空き家の活用・流通の促進に係る取組

【京都市空き家活用・流通支援等補助金】

事業概要

一戸建て・長屋建ての空き家を、活用・流通させる場合に必要な改修費や家財の撤去費を補助する。

	活用・流通促進タイプ	特定目的活用支援タイプ
補助対象 ・要件	1年以上、居住者又は利用者がいない空き家を、賃貸用又は売却用として流通させる場合、改修費等の一部を補助	現に居住者又は利用者がいない空き家を、 <u>まちづくり活動拠点等（地域の居場所づくり、京都市外から移住するものの住まい、若手芸術家の居住・制作・発表の場づくり等）として活用する場合</u> 、改修費等の一部を補助
補助金額	補助工事費用の1／2 上限額30万円（京町家の場合60万円）	補助工事費用の2／3 上限額60万円（京町家の場合90万円）

【京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクト】

1 事業概要

空き家活用の先端的モデルを示すことを目的に、まちの再生や地域の活性化に資する空き家の新しい活用方法の提案を公募し、優れた提案に対して改修等の費用の一部を補助する。

2 応募資格

- (1) 地域の自治組織、商店会
- (2) 市民活動団体等、上記(1)と連携が図れる者
- (3) 上記(1)又は(2)以外で、上記(1)と連携を図り、社会貢献等の目的を持って当該モデル・プロジェクトを実施しようとする団体等

3 助成金額 1プロジェクト当たり最大500万円（経費総額の8割）